

所属名	事務事業名	ページ番号
交通政策課	公共交通維持確保推進事業	2
交通政策課	北部地域交通運行経費	3
交通政策課	地域公共交通持続化支援事業	4
交通政策課	自動車運送事業会計関係事業	5
交通政策課	赤字路線バス運行事業	6
交通政策課	都市間バス路線等運行対策事業	7
交通政策課	路線バス燃料油価格高騰特別支援事業	8
交通政策課	路線バス利便増進事業	9
交通政策課	バスセンター管理事業	10

令和6年度 事務事業進捗報告シート

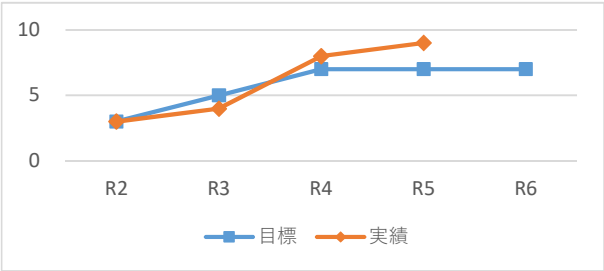
<b>事務事業名</b>	公共交通維持確保推進事業	<b>事業期間</b>	平成 31 ~ 年度
<b>担当部署・係名</b>	交通政策課 交通政策係	<b>担当課長名</b>	溝口 貴宏
<b>総合計画における位置づけ</b>	<b>政策</b>	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	<b>施策</b>	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	<b>基本事業</b>	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

<b>事業概要・目的</b>	公共交通空白地域等において、公共交通検討協議会を開催し、地域が主体となって地域のニーズに沿った公共交通を導入することで、公共交通空白地域を解消し、地域福祉の向上を図る。				
<b>事業の対象者</b>	市民				
<b>令和5年度主な活動実績</b>	春日北校区、諸富地区及び久保泉校区において、地域内公共交通の導入や利用促進について話し合うため、地域検討会にファシリテーターを派遣した。 ・春日北校区 本格運行を開始し、実績等について確認するとともに利用促進策について協議した。 ・諸富地区 試験運行を実施し、目標を達成したことから本格運行を実施することを決定した。 ・久保泉校区 デマンドタクシーの試験運行の実施に向け協議した。				
<b>決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない</b>					
<b>区分</b>	<b>R2年度</b>	<b>R3年度</b>	<b>R4年度</b>	<b>R5年度</b>	<b>R6年度</b>
<b>事業総額</b>	37,006	2,385	4,722	5,658	
<b>うち佐賀市の負担額</b>	11,303	834	2,513	5,658	

2 成果指標の目標及び実績

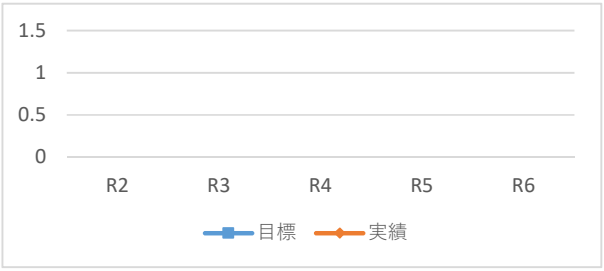
成果指標①						単位
公共交通検討協議会開催数						回
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
3	5 4	7 8	7 9	7		



年度	目標	実績
R2	7	3
R3	7	4
R4	7	8
R5	7	9
R6	7	

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		



年度	目標	実績
R2	0	0
R3	0	0
R4	0	0
R5	0	0
R6	0	0

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	公共交通空白地域等におけるモデル校区である春日北校区でデマンドタクシーの本格運行が開始され、諸富地区でも本格運行を実施することを決定した。協議会開催回数が目標を上回った。



成果目標達成に向けた対応策等
各地域において、それぞれの地域の特性を踏まえ、地域住民や運行会社等の関係者の意見調整を行いながら、本格運行に向けて検討を進めていく。本格運行後も会議を開催することで、問題・課題等の把握に努める。また、モデル地区である3校区の成果を踏まえ、今後の地域内交通の導入支援の制度化について検討していく。

令和6年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	北部地域交通運行経費	事業期間	平成 17 ~ 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	過疎地域などを抱える北部地域は人口が減少しており、民間バス会社では路線バスの採算が見込めない。そのため、市が三瀬地区コミュニティバス、富士町コミュニティバス及び松梅デマンドタクシーの運行欠損額相当分の補助を行うことで、高齢者や児童等の公共交通の確保及び地域福祉の充実を図っていく。				
事業の対象者	市民、タクシー業者				
令和5年度 主な活動実績	・三瀬地区コミュニティバス、富士町コミュニティバス及び松梅地区デマンドタクシーの運行事業者に対する運行欠損額の補助				
<b>決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	56,770	59,475	61,183	63,242	
うち佐賀市の負担額	50,490	55,395	48,783	62,842	

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
コミュニティバス及びデマンドタクシー利用者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
46,307	46,886 47,451	47,121 43,327	47,357 41,488	47,563		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	松梅地区デマンドタクシーでは利用者が約500人増加したが、富士町コミュニティバス及び三瀬地区コミュニティバスでは通学で利用する学生や高齢者など定期的な利用者が減少したことにより、全体で前年比約1,840人減少した。



成果目標達成に向けた対応策等
地域の公共交通に関する時事や利用実績などを掲載したニュースレターを定期的に運行地域に全戸配布することで、住民に対して広く周知し、利用促進を図っていく。また、各地域や利用者のニーズに合った運行内容を再検討することで、利便性を向上させ、利用者数の増加につなげる。

令和6年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	地域公共交通持続化支援事業	事業期間	令和 5 ~ 令和 5 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要	新型コロナウイルス感染症の影響によるドライバー不足やエネルギー価格の高騰等により、地域公共交通の担い手であるバス及びタクシー事業者は厳しい経営を強いられているため、人材確保の取組による経営改善の強化とともに、生産性や利用者サービスの向上に向けた事業のデジタル化を支援することで、持続可能な地域公共交通の確保・維持を図る。				
事業の対象者	バス事業者、タクシー事業者				
根拠法令等					
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額				5,828	
うち佐賀市の負担額				0	

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
免許取得支援事業(第二種運転免許取得費用補助)					人	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
			5			
活動実績②					単位	
デジタル化促進事業(タクシー配車アプリ導入経費補助)					台	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
			25			

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

<ul style="list-style-type: none"> <li>・免許取得支援事業(第二種運転免許取得費用補助)については3事業者5人に補助を行った。運転手不足の問題はなお深刻化しており、引き続き事業者と連携を取りながら、運転手確保の取組を継続する。</li> <li>・デジタル化促進事業(タクシー配車アプリ導入支援経費補助)については3事業者25台に補助を行った。配車アプリの導入率は全国から比べると佐賀は低く、今後も事業者と情報共有しながら、デジタル化を支援していく。</li> </ul>
---

令和6年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	自動車運送事業会計関係事業	事業期間	平成 9 ~ 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市民福祉の向上及び市民の日常生活における交通手段を確保するため、経営が厳しい交通局に対し補助金、繰出金等を支出することにより、経営の健全化を図る。				
事業の対象者	市民、交通局				
令和5年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活交通路線協調補助（11系統）</li> <li>・バス停上屋設置補助（1基分）</li> <li>・超低床型バス導入補助（新車3台分）</li> </ul>				
<b>決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	164,821	150,466	139,273	135,032	
うち佐賀市の負担額	164,821	150,466	139,273	135,032	

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
市営バスの利用者数						千人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
2,428	3,303 2,642	3,319 3,136	3,336 3,588	3,353		

成果指標②						単位
市民一人当たりの市営バスの利用回数						回
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
10.4	14.2 11.4	14.3 13.7	14.4 15.7	14.5		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	市営バスの利用者数及び市民一人当たりの市営バスの利用回数(どちらも前年よりも増加し、目標を上回った)。



成果目標達成に向けた対応策等
市営バスの利用者数及び利用回数について、令和4年度までは新型コロナウイルス感染症の影響が続いたが、令和5年度は回復した。交通局が令和6年3月に策定した「佐賀市交通事業経営戦略」に基づいて実施する増収対策、サービス向上対策及び節減対策の進捗状況を見極め、必要に応じて意見を述べることで、現状のバス路線を維持することを基本としながら事業費の増大を抑える。

令和6年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	赤字路線バス運行事業	事業期間	平成 18 ~ 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	交通局の経営効率化を進める必要がある一方、高齢化社会の進展や運転免許証の自主返納者数の増加を踏まえると、地域における生活交通路線を維持することも必要である。そのため、現在交通局が運行している路線のうち、赤字幅の大きい7路線を市の交通政策路線に位置づけて運行することにより、公共交通サービスの維持と市民の移動手段の確保を図る。				
事業の対象者	市民				
令和5年度主な活動実績	交通局の路線のうち、赤字幅が大きい7路線について、市の交通政策による路線として運行した。				
<b>決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	70,691	76,985	77,741	80,491	
うち佐賀市の負担額	70,691	76,985	77,741	80,491	

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
赤字7路線の利用者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
337,439	339,126 344,530	340,822 387,454	342,526 450,323	344,239		

成果指標②						単位
						回
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	赤字7路線の利用者数は前年よりも増加し、目標を上回った。



成果目標達成に向けた対応策等
赤字7路線の利用者数について、令和4年度までは新型コロナウイルス感染症の影響が続いたが、令和5年度は回復した。交通局が令和6年3月に策定した「佐賀市交通事業経営戦略」に基づいて実施する増収対策、サービス向上対策及び節減対策の進捗状況を見極め、必要に応じて意見を述べることで、現状のバス路線を維持することを基本としながら事業費の増大を抑える。

令和6年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	都市間バス路線等運行対策事業	事業期間	平成 22 ~ 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	利用者の減少により路線の維持が困難になっている民間の乗合バス事業者に対し、予算の範囲内において補助を行い、関係自治体等と協調して広域生活圏の機能保持を図るとともに、交通弱者をはじめとする市民の移動手段の確保を図る。				
事業の対象者	民間バス事業者				
令和5年度主な活動実績	祐徳バス（佐賀、武雄）、昭和バス（古湯、多久、佐賀唐津、中極）、西鉄バス（沖新、江見、神埼）、ジョイックス交通（三瀬神埼）各線の運行欠損補助				
<b>決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	95,982	92,593	90,151	94,113	
うち佐賀市の負担額	75,082	67,893	90,151	94,113	

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
民間事業者補助対象路線の乗車人数						千人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
721	721 608	721 790	721 1,074	721		

年度	目標	実績
R2	721	721
R3	721	608
R4	721	790
R5	721	1,074
R6	721	

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

年度	目標	実績
R2		
R3		
R4		
R5		
R6		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	路線バスの利用者は回復しており、目標を上回った。

成果目標達成に向けた対応策等
新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、利用者は回復している。引き続き各交通事業者と連携し、利用者を維持するとともに、各路線沿線市町と協調して利用促進に取り組む。

令和6年度 事務事業実績報告シート

<b>事務事業名</b>	路線バス燃料油価格高騰特別支援事業	<b>事業期間</b>	令和 4 ~ 令和 5 年度
<b>担当部署・係名</b>	交通政策課 交通政策係	<b>担当課長名</b>	溝口 貴宏
<b>総合計画における位置づけ</b>	<b>政策</b>	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	<b>施策</b>	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	<b>基本事業</b>	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

<b>事業概要・目的</b>	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により利用者数が激減するなか、燃料油価格高騰の影響を受けながら運行を継続している路線バス事業者を支援することにより、市民生活に必要な公共交通の維持を図る。 内容：路線バス燃料油価格高騰特別支援金の支給。 (R5単価-R1単価)円×市内における燃料使用量				
<b>事業の対象者</b>	市内の営業所を利用するとともに、市内を運行するバス路線を有する路線バス事業者				
<b>根拠法令等</b>					
<b>決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
<b>区分</b>	<b>R2年度</b>	<b>R3年度</b>	<b>R4年度</b>	<b>R5年度</b>	<b>R6年度</b>
<b>事業費総額</b>			21,821	15,138	
うち佐賀市の負担額			0	0	

2 事業の活動実績

<b>活動実績①</b>					<b>単位</b>	
支援金支給事業者					者	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
		5	5			
<b>活動実績②</b>					<b>単位</b>	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

燃料油価格高騰特別支援金の支給により、路線バスの維持を図った。今後も必要に応じ、路線バス事業者を支援することで市民生活に必要な公共交通を確保していく。

令和6年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	路線バス利便増進事業	事業期間	令和 5 ~ 令和 5 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要	交通系ICカードnimocaを活用して、佐賀駅バスセンターにおいて事業者間の乗継割引を創設するのに必要なシステム構築費用等を補助するもの。現在、各事業者内で乗継割引を実施されているが、事業者間の乗継割引は対象外となっている。佐賀駅バスセンターの乗り場を先行方面別に再編したため、佐賀駅バスセンターでは事業者の区別なく一番早いバスに乗り込める環境が整った。そこで、佐賀駅バスセンターでの乗継ぎに限り事業者間の乗継割引を実施することで、バスの利便性を向上させる。 ※佐賀駅バスセンター以外の乗継は対象外				
事業の対象者	佐賀市内バス事業者（佐賀市営バス、昭和バス、祐徳バス、西鉄バス）				
根拠法令等					
<b>決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額				890	
うち佐賀市の負担額				890	

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
路線バスの年間利用者数					万人	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
			442			
活動実績②					単位	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

路線バスの利用者は、新型コロナウイルス感染症の影響による減少から回復を見せている。市内バス路線の中枢にある佐賀駅バスセンターの利便性を向上させることで、更なる利用者の増進に繋げていく。

令和6年度 事務事業進捗報告シート

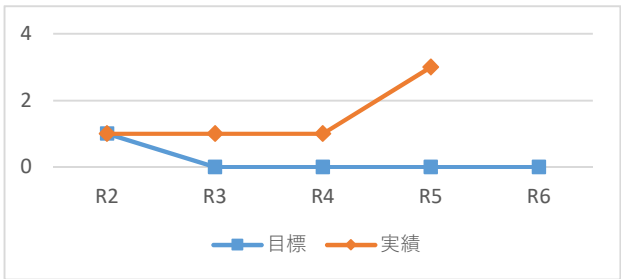
事務事業名	バスセンター管理事業	事業期間	昭和 51 ~ 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	地域資源を活かして新たな賑わいと活力を創出するまち	
	施策	03賑わいあふれる中心市街地の活性化	
	基本事業	街なか再生の基盤整備	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	日々、多くの利用者がある佐賀駅バスセンターの利便性及び快適性を確保するため、適切な管理を行う。				
事業の対象者	バスセンター利用者				
令和5年度 主な活動実績	佐賀駅バスセンターの利便性及び快適性を確保するため、適切な管理を行った。 ・佐賀駅バスセンターの借地料 13,680,000円 ・佐賀駅バスセンター設備補修費等 1,654,400円 ・夜間警備等に要した経費 4,777,000円 ・佐賀駅バスセンター外構道路舗装工事 33,283,800円				
<b>決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	20,502	18,519	20,661	54,064	
うち佐賀市の負担額	0	0	1,233	33,284	

2 成果指標の目標及び実績

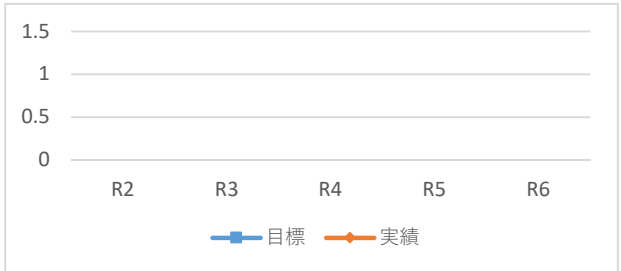
成果指標①						単位
利用者の満足度 (提言中苦情件数)						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
1	0 1	0 1	0 3	0		



年度	目標	実績
R2	0	0
R3	0	1
R4	0	1
R5	0	3
R6	0	0

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		



年度	目標	実績
R2	0	0
R3	0	0
R4	0	0
R5	0	0
R6	0	0

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	佐賀駅バスセンターを利用する方の利便性、快適性を確保するため、日々の管理に努め、夜間の警備業務等、佐賀県バスタクシー協会などの事業者と連携を図りながら実施した。



成果目標達成に向けた対応策等
管理・運営を行っている県バスタクシー協会と連携して、社会情勢の変化に対応し、利便性及び快適性の確保に努める。